

平成 30 年度 第 2 委員会 行政視察復命書

H30.8.9

4 番 間野みどり

日 時 平成 30 年 7 月 25 日（水）～7 月 27 日（金）

- 視察先
1. おがっこ「ネウボラ」について（男鹿市）
 2. 由利本荘地域生活支援センターについて
（他事業にわたる障害者生活支援センター）（由利本荘市）
 3. インターネットを活用した遠隔診療について（湯沢市）
 4. 学力向上に関わること
言語活動の充実による学力向上推進事業について（横手市）

以上の行政視察に行きましたので報告致します。

7 月 25 日（水）～7 月 27 日（金）に行われました第 2 委員会行政視察は、去年の何もわからずに参加した行政視察とは異なり、2 回目ということで本当に様々な事に触れ吸収できた視察でした。事前の勉強時間もあり、視察地での質問も考えてすることができ、私は充実していました。

1. おがっこ「ネウボラ」について（男鹿市）

男鹿市は、人口 28133 人、前年度より 646 人減、伊豆市に似たところがあります。近くに海が見え、いのしし等の動物用のフェンスがみえず、稲が見事に並び風になびいている光景が穏やかに感じました。“なまはげ”で有名で、それを心の誇りに思っているように感じました。

その市で行われている「ネウボラ」についての取り組みを聞きました。生まれてから就学前までを中心に、いろいろ工夫している様子がわかりました。

伊豆市でも行っている子育て支援や就学指導等、その他の活動や支援も、「ネウボラ」の一部ですが、それを「ネウボラ」という言葉を中心に活用し、わかりやすく誰でも相談しやすくしているという所が一番のポイントであると感じました。

「ネウボラ」という言葉は、前市長が始めたとの事で、他市町村の先行的な事例を参考にし、「ネウボラ」って何？から皆に興味を持ってもらい、少しずつ周知されて今に至っているとの事です。伊豆市も、もちろん様々な活動や支援をしっかりと行っていると確認しましたが、集中的にわかりやすく相談しやすいシステムづくりは大切であると感じました。

説明の方から、「ネウボラ」＝“少子化を防ぐこと”にはつながらないという話も聞き、さらに「ネウボラ」を通しソフト面の充実が住みやすい町づくりにつながる事、そこに「ネウボラ」の本来の役目があると私自身感じました。

※追記：「ネウボラ」…“子育て包括支援センター”のこと

2. 由利本荘地域生活支援センターについて

(他事業にわたる障害者生活支援センター) (由利本荘市)

社会福祉法人秋田県社会福祉事業団が運営するセンターでした。

(生活介護事業) (児童発達支援事業) (放課後等デイサービス事業) (相談支援事業) (障害者基幹相談支援センター) (障害者就業・生活センター・イーサポート) このような事業を行っていました。

総勢 30 名スタッフで、様々な分野があり大変だと思う反面、利用者にとっては孤立することなく違う風をうけながらの生活は良いことだと感じました。特に、放課後等デイサービス事業の子ども達の明るい顔は、素晴らしい事業を行っていると思いました。また、グループホームはとても良い環境で、当事者も家族も安心していると感じました。

利用者のニーズが定員をうわまわっていて、利用回数を調整していると聞き、今後新規事業所開設を検討しているとのこと。今、どこの地域も同じ問題点を抱えているなと思いました。

伊豆市の今後の課題、障害者、放課後等デイサービスにとって、とても参考になると思い、市にも伝えていきたいと思いました。

3. インターネットを活用した遠隔診療について（湯沢市）

湯沢市は、人口 46000 人、毎年 880 人程の人口減が続いている市です。

インターネットをどのように使っているかと思いましたが、その分野に携わっている医療法人小野崎医院の小野崎医院長先生や、その使用しているインターネット機材のニプロ(株)の方の説明でとても良くわかりました。

医師や看護師の負担の軽減のために、今後この分野は必要なものになると感じました。

お年寄りには顔を見ないと安心しない、手をとって貰わないと安心しない等の課題はありますが、時代と共にもっともっと自然にそこに必要になる技術ではないでしょうか。なかなか採算のとれる事業ではないと聞きましたが、今後発展するものだと思います。

4. 学力向上に関わること

言語活動の充実による学力向上推進事業について（横手市）

横手市の伊藤孝俊教育長の話は、衝撃的で、今回の視察の中で一番印象に残りました。

学校教育の今後について、教育長の話と資料によると…

①同一テーマで研究していくことが大切

その時代によって様々な課題があるが、学校間の格差をなくすことが一番大事な事だと思っている。（どの先生が秀でていいるのではなく、どの先生に聞いても同じように教育でき統一性があること。）

②新聞を読む、読書する横手市の子どもたち

③全国学力・学習状況調査は検証の一つ、言葉の力がある子どもは学力が伸びる

④多読から具体的な目標設定へ

⑤コミュニケーション能力が大切

自分の意見を持ち、それをしっかり伝えられる。

「総合的に言葉の力を身に付けることが、学力向上につながる大きなカギだと、私は思います。」そう、自信を持って答えていた教育長のリーダーシップに目から鱗でした。またその後、学校統合のプロセスや小中一貫校への思い等の

問題には、「自分は教職員の力量から、それは考えられない。」とも答えていました。

このような話を聞き、教育に一番大事な事は、子ども達にどのような教育をしていくかではなく、子ども達が自ら言葉の力を身につけていくことで、自らの学力の向上につながるという事が、基本であり大事だと受け取りました。またもう一つ、郷土を大切にすることが大事と言っていたことも、とても印象に残りました。

今回の視察は、身近なものが多く本当に参考になり、今後の議員活動の一般質問やその他に、是非役立てて行きたいと思いました。

以上